

年 組 名前：



甲府市は市内の宝飾業者と連携し、二酸化炭素を排出しない水素を燃料としたバーナーでジュエリーを製作する実証事業を始めた。素材にはリサイクルされた貴金属や宝石の端材を活用。ランニングコストなどのデータを集め、宝飾業者に紹介する。環境に配慮した街づくりの一環として水素バーナーの活用を促進すると同時に、宝飾産業の新たな価値創出を図る。
 〈杉原みずき〉

市と宝飾業者が実証事業 脱炭素、新たな価値創出へ



市環境政策課によると、貴金属加工は一般的にガスバーナーが用いられている。水素バーナーは高温で

水素バーナーで ジュエリー製作

炎が細く、すぐに出にくいなどの特性がある。実証事業は、脱炭素社会の実現に向けた「こうふくグリーンラボ」事業の一環。市は水素バーナー1台を購入した。本年度の実証は、市内の宝飾業者1社に機器を貸与して試作品の製作、データ収集を行う。ジュエリーは、使わなくなった貴金属を再利用したり、不用になった携帯電話やパソコンなどの電子基板を回収して試作品の製作、データ収集を行う。

などから作ったりしたリサイクルメタルを地金として使用。宝石の端材を組み合わせて水素バーナーで加工し、「こうふくステナアルジュエリー(仮称 KSSJ)」を製作する。水素バーナー使用にかかるコストや金属との相性などのデータを集め、メトリック、デメリットを検証する。

実証は11月末にスタートし、12月中旬に宝飾業者を対象にした講習会を開き、結果を紹介する。水素バーナーの実演や使用方法の説明も行い、関心のある事業者には市の水素バーナーを貸与する。試作品は来年2月に発表する予定。市は来年度以降、KSSJについて定義し、宝飾業者と意見交換しながら商品化に向けた検討をする方針。同課の担当者は「環境に配慮した製品は欧州などに関心が高い。水素エネルギーの普及を図りながら、事業者や消費者にとっての選択肢を増やしたい」と話している。

(2024年12月10日付 山梨日日新聞10面)

問1 甲府市は、宝飾業者と連携し、どのような実証事業を始めましたか。

.....

問2 ジュエリーは、なにを地金として利用していますか。

.....

問3 この実証事業を進めていくことは、なにに繋がると思いますか。

.....